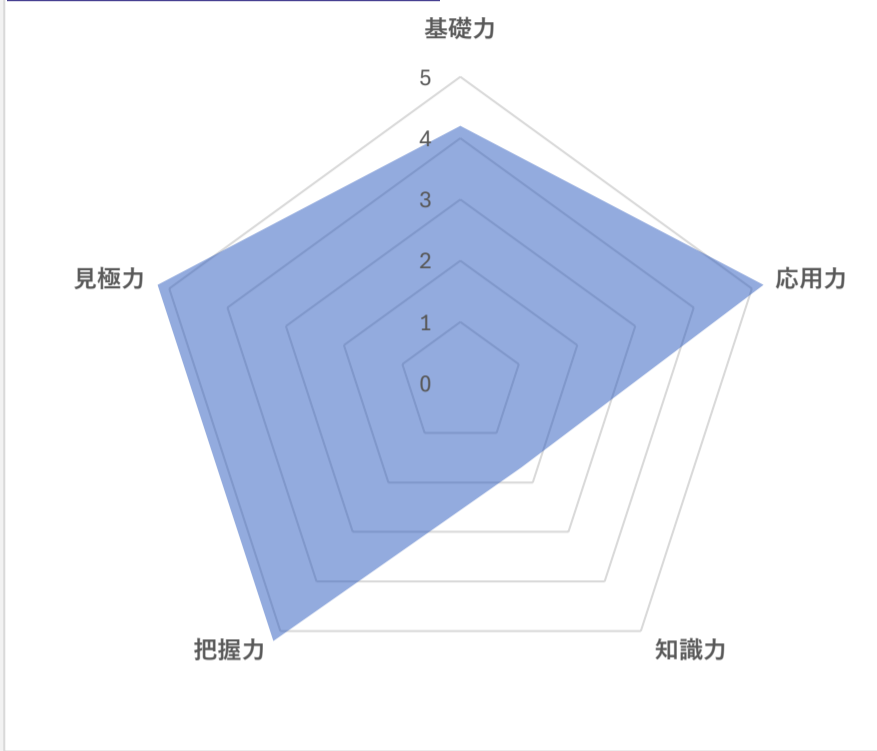


総合分析

試験区分	一般（前期）
------	--------

制限時間	60分（理科2科120分）	大問数	全2問
------	---------------	-----	-----

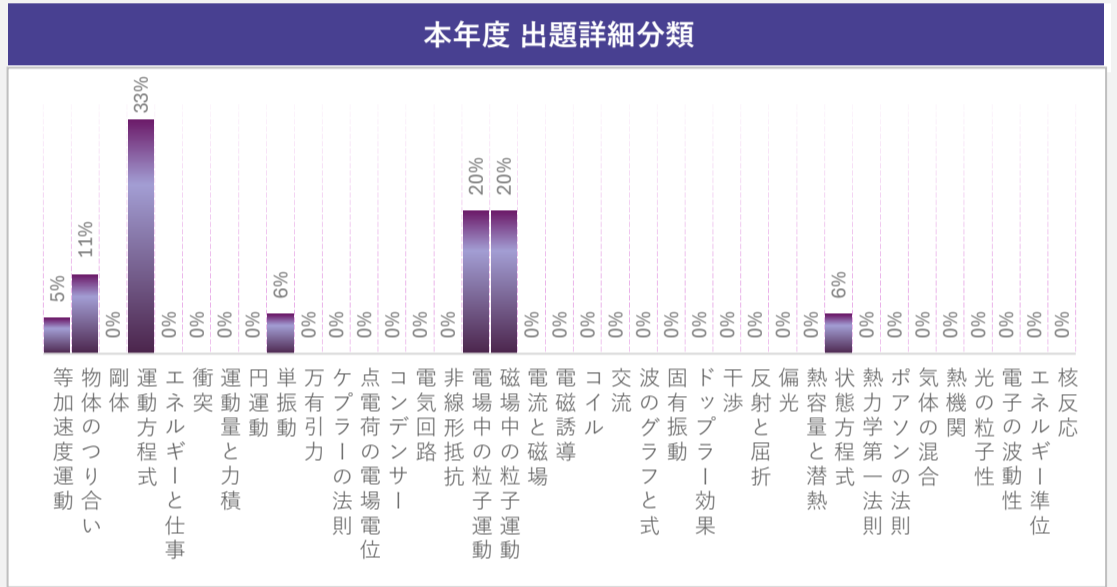
合格に要する能力（5段階）



出題分野	
力学	54%
電磁気学	40%
波動	0%
熱力学	6%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	薄膜チューブの脈動のモデル化
第2問	トムソンの質量分析器・アストンの質量分析器

本年度 解答形式
穴埋め記述 100%



特殊問題の有無	近似計算あり	グラフあり
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算なし

特記事項 設問で述べられたモデルを素早く把握しなければならず、一部解答しにくい設問が見られる。

総合評価

難度	4.3	最難を5とする問題自体の難度	難しい	一次合格に必要な正答率（予想）	45%
分量	80分	完答に要する時間（制限時間は60分）	多い	正答率をさほど要さない	

**入試の特徴と対策**

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 他に類を見ない出題が多く、対策は難しい。学習では量より質が鍵となる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 解法が誘導的に与えられる傾向がある。基礎に重点を置いた学習が要となる。

**入試から見る大学が求める学生像**

モデルや状況設定が長文で説明されており、設けられた空欄に解答を埋めていく形式で出題される。扱われる物理現象は難関大学の入試問題としても難問に該当する。初見の問題にも物怖じせず、果敢に挑戦する姿勢を持つ学生を求めていると考えられる。